

中国の鉄鋼貿易と域内分業促進効果

青木 健 *Takeshi Aoki*

杏林大学総合政策学部 教授

(財)国際貿易投資研究所 客員研究員

中国の総輸入で東アジアの比重が高まる中で、日本、NIES、ASEAN 別に機械4品目（一般、電気、輸送及び精密）でのシェア変化は多様である。例えば輸送機器では日本のシェアは上昇しているが、他の3品目では全て低下している。電気機械ではNIESとASEANのシェアは上昇している。一般機械では日本とNIESのシェアは低下しているが、ASEANのそれは上昇している。こうした動きは東アジア諸国間の比較優位構造の変化を反映したものである。それと連動して東アジア諸国の対中輸出シェアの変化があることはいうまでもない。つまり中国の東アジアからの輸入を増加する過程で、東アジア諸国の工業化の進展を反映して財別構成が不断に変化し、同地域の分業構造を変貌させ再編を促進しつつあるということである。これをみるアングルはいくつかあるが、ここでは a dual hub（注1）として中国の役割を分析する。

東アジアは日本から資本財や部品を輸入して、組立後米国を中心とする先進国にとりわけ機械製品を輸出するというネットワーク構造を基本的に有する。中国が経済を開放したことにより、そうしたネットワークにもうひとつの新たなリンクを付加した。NIESの産業と輸出構造の高度化によって、特に台湾と韓国が日本から資本財や部品を輸入して、中国やその他の域内諸国向けに労働集約的な加工組立用部品の供給国に成長している。NIESが日本から部品などを輸入し、それによる製品を米国に輸出するという貿易関係を維持しつつも、日本が担ってきた役割を一部とって代わりつつあるということである。これは中国が a dual hub となったとい

うということを示すものである。中国は東アジア域内で別の分野でも a dual hub の役割を果たそうとしている。鉄鋼貿易である。同時に鉄鋼貿易でも機械貿易と同様に、東アジア域内貿易において「集中」(総輸入に占める東アジアシェアの上昇)と「分散」(総輸出における東アジア向けシェアの低下)構造を形成しつつある。

東アジアの鉄鋼貿易の構造

東アジア全体の鉄鋼貿易の構造として以下のような特徴が挙げられる。

鉄鉱石の域内輸入比率は 17.1%と極めて低い。鉄鉱石輸入の対中間財としての鉄鋼(HS72)輸入比率も 19.3%と極めて低い。鉄鋼(HS72)の域内貿易比率は輸出で 64.2%、輸入で 63.2%である。鉄鋼製品(HS73)の域内貿易比率で、輸入は 71.8%と極めて高いが、輸出では 38.2%と低い。HS72 の対世界輸出入規模はほとんど同額である(それぞれ 633 億ドル、643 億ドル)。HS73 の対世界輸出入規模は輸出 266 億ドルに対し、輸入 142 億ドルである。HS72 と HS73 の輸出入規模を比較すると、いずれも前者の方が大きい。東アジアの鉄鋼貿易規模の大きい上位 4 ヶ国は中国、日本、韓国および台湾で

ある。上位 4 ヶ国の合計シェアは HS72 では輸出 50.2%、輸入 60.8%である。HS73 では、輸出 83.3%、輸入 59.5%である。

東アジア 4 ヶ国を世界規模でみると次のとおり。HS72 の輸入では中国が第 1 位(14.9%)、韓国第 6 位(5.5%)、台湾第 9 位(3.7%)、日本第 17 位(2.1%)であり、HS73 の輸入では米国がトップで(16.3%)、中国第 8 位(3.6%)、日本第 12 位(3.1%)、韓国第 19 位(1.5%)である。輸出では HS72 の最大の輸出国は日本で(10.9%)以下韓国第 6 位(4.9%)、台湾第 10 位(3.8%)、中国第 16 位(2.4%)と続く。HS73 の輸出では、第 1 位がドイツ(14.1%)で、中国が第 2 位(9.1%)、日本第 6 位(6.0%)、台湾第 8 位(3.7%)、韓国第 14 位(2.5%)である(括弧内の数字は世界におけるシェア。以上いずれも 2003 年値)。4 ヶ国の鉄鋼輸出入規模は

表1でみるとおりである。HS72 に関し、輸入では中国が、輸出では日本がそれぞれ圧倒的な規模を誇る。HS73 では中国が輸出入とも最大である。4ヶ国の鉄鋼輸出入の域内貿易比率は表2で示すとおりである。共通点はHS72、HS73の域内輸入比率が高いのに対し、鉄鋼製品(HS73)の域内輸出比率が低いということである。特に中国のHS73の域内輸出比率が最も低い。

表1 中国・日本・韓国・台湾の鉄鋼の輸出入規模比較

(単位: 100 万ドル)

	HS	年次	輸出	輸入	収支
中国	72	1996	3083	6799	3716
		2003	3413	22229	18816
		2003	3129	1638	1491
	73	1996	9455	3377	6078
		2003	12338	4187	8151
		2003	15750	3102	12648
日本	72	1996	6292	2099	4193
		2003	6242	2858	3383
		2003	4565	6781	2216
	73	1996	7136	8208	1072
		1996	2213	1557	656
		2003	2578	1444	1134
韓国	72	1996	2236	4901	2665
		2003	5449	5536	87
		1996	3468	815	2653
	73	1996	3894	736	3158
		2003	3894	736	3158
		2003	3894	736	3158

(資料) World Trade Atlas より作成。以下同じ。

上記の構造は機械貿易と同様に東アジア域内の鉄鋼貿易は同財最大の輸出入国である中国を中軸に展開されていることを示唆している。つまり中国の域内輸入比率は高いのに対

し、鉄鋼製品の域内輸出比率は極めて低く、これが域外輸出圧力を強めることになる。鉄鋼製品(HS73)の域外最大の輸出先である米国向けの比率が極めて高い。これを支えているのが東アジアからの中間財としての鉄鋼(HS72)の輸入である。まさに「集中」(東アジアからのHS72の輸入シェアの上昇)であり、米国を中心とした域外への鉄鋼製品(HS73)輸出シェアの高まりつまり東アジア向け輸出シェアの低下である(「分散」)。こうした過程を通じて東アジア域内で4ヶ国を中心に、中間財や製品間で多層な域内分業構造を形成し再編している。

表2 鉄鋼輸出入の域内貿易比率

(単位: %)

	HS	輸入		輸出	
		72	73	72	73
中国	1996	54.5	60.3	73.9	31.9
	2003	49.4	61.6	65.4	20.3
日本	1996	51.5	58.9	75.7	43.3
	2003	60.0	68.7	82.3	45.5
韓国	1996	49.9	45.2	74.5	35.5
	2003	60.8	50.3	72.2	37.5
台湾	1996	38.6	61.7	82.3	22.4
	2003	38.0	68.6	86.0	21.4

鉄鋼生産と貿易における中国の地位

世界の年間粗鋼生産量は1973年にはじめて7億トンを超えたが、その後石油危機の影響で先進国の経済

成長が鈍化し、1999年まで8億トンを超えたことは一度もなかった(注2)。しかしその後世界全体の粗鋼生産量は上昇に転じ、2003年には9.68億トンになり、2004年には10億3500万トンに達した。中国は世界最大の粗鋼生産国で、生産量は1996年にはじめて1億トンを超え2003年の2.22億トンを経て、2004年には2億7246万トンになった。世界の粗鋼生産量に占める中国のシェアは26.3%で、第2位日本のシェア10.8%の2.4倍である。第3位は米国でシェアは9.5%である(いずれも2004年)。

中国の粗鋼生産量は8年間で約2.5倍になったということで、それは年間約3000万トンずつ増加していることになる。そのため中国はその分の原料を調達しなければならない。原料調達の方法として次の3つがある。国内の鉄鉱石の増産。中国国内の鉄鉱石生産量は1997年の2億6862万トン进行ピークに減少していたが、2002年以降増加に転じ、2004年には3.10億トンになった。中国産出鉄鉱石の鉄含有量は50%で(30%以下という説もある)世界最高の65%はもとより世界平均を下回

る。全体として国内の鉄鉱石生産量の増加は今後期待できないであろう。

海外から鉄鉱石の輸入(HS26)。鉄鉱石の輸入は数量ベースで、1980年の701万トンから1985年に1000万トン、1997年に5000万トンさらにその後急増し、2002年以降1億トン台に乗り、2003年には1億4813万トンを経て、2004年には2億トンを超えた。2003年の輸入先上位3カ国は豪州、ブラジルおよびインドで、3カ国の輸入合計シェアは87%にもなる。鉄鉱石の輸入依存度は1992年に10%台に、1997年に20%台にそれぞれ乗るとともにその後上昇の一途をたどり、2003年には50%台に乗り、2004年には57.3%に達した。金額ベースでは中国は日本(世界シェアの20.9%)に次ぐ第2位(20.1%、72億ドル、いずれも2003年値)の輸入国である。鋼材(注3)の輸入。鋼材の輸入量は1990年代初頭まで大きな変動がみられるが、その後はほぼ一貫して増加しており、2003年には過去最高の3717万トンに達したが、2004年には2930万トンに低下した。鋼材の輸入依存度(対鋼材生産)もほぼ同様な動きをみせ、1990

年代以降 10%台で推移し、2003 年に 16.7%になったが、2004 年には 9.8%に低下した。金額ベースでは中国は世界最大の輸入国である。2003 年の輸入額は 256 億ドルで、世界輸入の 10.5%を占める。日本の輸入シェアは 2.4%で世界第 14 位である。一方輸出でも中国は世界でプレゼンスを高めおり、世界シェアは 1999 年の 3.5%から 2003 年には 5.1%となり世界第 7 位の輸出国である。日本（8.8%）はドイツ（11.8%）に次ぐ世界第 2 の輸出国である（いずれも HS72 と HS73 の合計）。

中国の鉄鋼貿易構造の変化

鋼材を中間財としての鉄鋼(HS72)と鉄鋼製品(HS73)に分離して両者を比較すると、前掲表 1 から、中国の特徴的構造として次の点があげられる。中国は世界最大の鉄鋼関連財(HS72 + HS73)輸入国で、輸出でもプレゼンスを急速に高め、対外的に大きな影響力を及ぼしている。輸入では、鉄鋼(HS72)が鉄鋼製品(HS73)を大きく上回る。輸出では逆に鉄鋼製品が鉄鋼を大きく上回る。

これは中国が鉄鋼を輸入し、鉄鋼製品を輸出するという構造をみせたものである。事実、HS73 と HS72 の輸入比率を比べると圧倒的に後者の規模が大きく、2003 年では 0.15 と 1995 年の 0.37 に比べ半分に低下した。一方、輸出(HS73/HS72)は、1996 年に両者の規模はほぼ同じであったが、2003 年には鉄鋼製品(HS73)が鉄鋼(HS72)の 2.8 倍となった。

中国の鉄鋼貿易の基本構造は中間財としての鉄鋼(HS72)を日本、台湾および韓国の東アジア 3 カ国からほとんど輸入し、鉄鋼製品(HS73 = レール、パイプ、ガス容器、ケーブル、鋼板など)として米国さらに日本などに輸出することである。つまり中間財としての鉄鋼を東アジアから調達し、製品として米国を中心とする域外に輸出するということである。この過程で、中国は東アジア域内で不断に分業構造を変化させている。HS4 桁ベースで中国、日本、台湾および韓国を中心に分業構造の変化を分析する。

1) 4 カ国の対世界輸出入上位 10 品目のシェアおよび累積シェアをみたのが表 3 である。次の特徴がある。

表3 東アジア4カ国の鉄鋼の対世界輸入出上位10位品目の構成

(単位：%)

HS	輸入								輸出							
	中国		日本		韓国		台湾		中国		日本		韓国		台湾	
	1996	2003	1996	2003	1996	2003	1996	2003	1996	2003	1996	2003	1996	2003	1996	2003
7201			3.0	3.4	5.8	3.3	2.9	3.2	16.6	3.7						
7202			32.9	40.7	8.2	10.1	7.5	11.7	22.7	33.1						
7203					2.1										1.7	
7204	2.6	6.3	5.0	6.1	13.9	15.3	4.5	14.3			2.6	6.6		2.3		
7205			2.2	2.7												
7206																
7207		6.5	1.8		15.9	13.6	29.6	31.7	20.2	9.8		4.4	2.2			
7208	17.6	16.1	28.4	16.6	20.6	24.7	13.6	9.4	17.0	10.0	11.3	19.6	29.4	17.4	14.8	11.2
7209	24.2	18.9	9.4	8.8					3.4	2.6	17.3	9.8	18.1	17.3	23.2	18.0
7210	12.4	17.8	6.0	5.4	4.4	4.4	8.0	4.6	1.6	4.1	18.1	16.4	17.2	22.8	14.9	24.5
7211		1.2														
7212	2.6	1.3									1.9			1.5		
7213	10.6		1.7		3.6	3.6	3.4	2.9	2.5	8.9	2.7	2.2			4.0	2.3
7214	7.2					4.1			3.4	7.3			2.3			1.1
7215																
7216	2.2				5.4	2.8	3.5		4.7		3.9		4.0	4.3	2.4	1.7
7217				2.7					2.4	4.8			2.8	2.7		
7218																
7219	7.0	15.0	1.7	3.7	7.0	5.2	10.5	8.8			11.3	8.2	11.0	17.3	19.6	24.6
7220		1.8									2.8	2.2			1.8	1.7
7221															3.3	2.2
7222													1.9			
7223				2.0									1.8	1.8		
7224																
7225	3.6	5.4						1.7		2.3	12.2	12.9		2.4	2.2	2.6
7226																
7227							2.5	2.3								
7228																
7229																
合計	90.0	90.3	92.1	92.1	86.9	87.1	86.0	90.6	94.5	86.6	84.1	84.6	88.4	89.8	87.9	89.9
7301													3.8			
7302		1.1					3.2	12.2								
7303																
7304	19.4	17.1	2.3		27.1	15.7	20.9	15.4	4.6	3.7	28.0	23.6				
7305	1.8	5.3									9.3	15.3		3.2		
7306	10.4	7.4	6.3	2.0	5.0		5.1	4.0		3.3	4.5	3.5	17.9	15.7	4.1	6.8
7307	4.7	4.9	11.9	11.1	8.6	8.8	11.7	6.6	9.3	5.5	4.6	3.7	4.1	8.5	4.3	3.3
7308	17.2	6.1	12.9	15.3	6.2	9.6	9.8	11.7	10.5	11.4	3.7	3.0	14.9	16.0		
7309	3.3															
7310						3.6										
7311					3.4											
7312	1.7	4.7		2.5	3.3	3.2	4.0	6.1			3.7	2.9	10.2	14.2		
7313																
7314									3.3							
7315			2.5	2.1			3.2	3.7	3.6	4.4	4.6	4.1			2.5	1.6
7316																
7317										3.0			5.2	5.1	1.6	2.4
7318	9.6	22.9	12.0	12.6	6.1	7.6	10.0	11.5	8.4	8.5	19.0	21.3	5.7	4.4	36.6	43.2
7319																
7320	2.4	9.2									3.7	4.5				
7321			2.5	2.2					3.7	7.2				2.3	2.3	2.2
7322																
7323			10.1	11.3	3.2	4.4	4.2	3.3	16.5	18.2			10.3	3.8	9.1	8.4
7324															2.8	3.3
7325			4.0	3.0	4.8	5.8			12.1	6.4			5.5	4.1	3.2	2.3
7326	18.1	14.6	22.8	26.7	13.3	21.8	10.4	10.9	13.1	17.7	7.4	8.3	5.7	9.5	27.1	20.9
合計	88.6	93.3	87.3	88.8	81.0	83.7	83.0	85.3	85.9	84.9	88.5	90.2	83.3	86.8	93.6	93.8

HS72 の 29 品目中輸出入とも上位 10 品目の累積シェアは各国とも 80%以上を占める。輸出では中国を、輸入では韓国を除き、むしろ上位 10 品目の累積シェアは高まっている。

HS73 (26 品目) でも輸出入上位 10 品目の累積シェアはいずれも 80%以上である。輸入では 4 力国とも 1996 年に比べ一層高まっている。輸出では日本を除き他の 3 力国では低下。HS72 および HS73 のそれぞれ輸出入とも上位 3 品目の累積シェアはほとんど 50%を超えるかそれに近い。つまり 4 力国とも貿易財として両財の取引品目数は極めて少ないということである。

2) HS72 および HS73 を 4 桁ベースでみて、4 力国の輸出入に関し次の特徴が観察される。HS72 で、4 力国共通して上位 10 位に入っているのは、輸入で 7204 (鉄鋼のくずなど)、7208 (鉄又は非合金鋼のフラットロール製品)、7210 (鉄又は非合金鋼のフラットロール製品、クラッドしたもの) および 7219 (ステンレス鋼のフラットロール製品、幅が 600 ミリメートル以上のもの) の 4 品目、輸出で 7208、7209 (鉄又は非合金鋼

のフラットロール製品、クラッドしたものを除く) および 7210 の 3 品目である。HS73 においては、輸出で 7306 (鉄鋼製のその他の管及び中空の形材)、7307 (鉄鋼製の管用継手)、7318 (鉄鋼製のねじ、ボルト、ナットなど) および 7326 (その他の鉄鋼製品)、輸入で 7307、7308 (構造物及びその部分品)、7318 および 7326 の各 4 品目である。4 力国輸出入上位 3 品目に関し、HS72 および HS73 のいずれにおいても、一部重なる品目があるがかなり異なる。いずれも各国の比較優位構造を反映したものである。

3) HS72 および HS73 の 4 桁ベースの品目名は別表のとおりである。ところで 4 桁分類の配列はどのような経済的意味が有するのであろうか。同表より次の特徴があげられる。HS7201 - 7205 は製鉄から抽出された加工度の低い銑鉄を中心とする中間財。フェロアロイは鉄以外の成分を含む鉄鉱石である。数字が大きくなるにつれて「鉄又は非合金鋼」「ステンレス鋼」「その他の合金鋼」と生産工程が川上から川下になっていき加工度が高まっている。

(別表)

HS	品名
7201	鉄鉄及びスピーゲル(なまこ形、ブロックその他の一次形状のものに限る。)
7202	フェロアロイ 鉄鉱石を直接還元して得た鉄鋼その他の海綿状の鉄鋼及び重量比による純度が99.94%以上の鉄(ランプ、ペレットその他これらに類する形状のものに限る。)
7203	鉄鋼のくず及び鉄鋼の再溶解用のインゴット
7205	鉄鉄、スピーゲル又は鉄鋼の粒及び粉
7207	鉄又は非合金鋼の半製品 鉄又は非合金鋼のフラットロール製品(熱間圧延をしたもので幅が600ミリメートル以上のものに限るものとし、クラッドし、めつきし又は被覆したものを除く。)
7208	鉄又は非合金鋼のフラットロール製品(冷間圧延をしたもので、幅が600ミリメートル以上のものに限るものとし、クラッドし、めつきし又は被覆したものを除く。)
7209	鉄又は非合金鋼のフラットロール製品(クラッドし、めつきし又は被覆したもので、幅が600ミリメートル以上のものに限るものとし、クラッドし、めつきし又は被覆したものを除く。)
7210	鉄又は非合金鋼のフラットロール製品(幅が600ミリメートル未満のものに限るものとし、クラッドし、めつきし又は被覆したものを除く。)
7211	鉄又は非合金鋼のフラットロール製品(クラッドし、めつきし又は被覆したもので、幅が600ミリメートル未満のものに限る。)
7212	鉄又は非合金鋼の棒(熱間圧延をしたもので不規則に巻いたものに限る。)
7213	鉄又は非合金鋼のその他の棒(鍛造、熱間圧延、熱間引抜き又は熱間押し出しをしたものに限るものとし、更に加工したものを除く。ただし、圧延後ねじつものを除く。)
7214	鉄又は非合金鋼の形鋼
7216	鉄又は非合金鋼の線
7217	鉄又は非合金鋼の線
7218	ステンレス鋼のインゴットその他の一次形状のもの及び半製品
7219	ステンレス鋼のフラットロール製品(幅が600ミリメートル以上のものに限る。)
7220	ステンレス鋼のフラットロール製品(幅が600ミリメートル未満のものに限る。)
7221	ステンレス鋼の棒(熱間圧延をしたもので不規則に巻いたものに限る。)
7222	ステンレス鋼のその他の棒及び形鋼
7223	ステンレス鋼の線
7225	その他の合金鋼のフラットロール製品(幅が600ミリメートル以上のものに限る。)
7227	その他の合金鋼の棒(熱間圧延をしたもので不規則に巻いたものに限る。)
7301	鋼矢板(穴をあけてあるかないか又は組み合わせてあるかないかを問わない。)及び溶接形鋼 レール、カードレール、ラックレール及びトングレール、軸差、軸輻棒その他の分岐器の構成部分(鉄鋼製の建設資材で鉄道又は軌道の線路用のものに限る。)並びにまくら木、継目板、座鉄、座鉄くさび、ソールプレート、レールクリップ、床板、タイその他の資材で、レールの接続又は取付けに専ら使用するもの(鉄鋼製の建設資材で鉄道又は軌道の線路用のものに限る。)
7302	鉄鋼製の管及び中空の形材(継目なしのものに限るものとし、鋳鉄製のものを除く。)
7303	鉄鋼製のその他の管(例えば、溶接、リベット接合その他これらに類する接合をしたもの、横断面が円形のもので、外径が406.4ミリメートルを超えるものに限る。)
7305	鉄鋼製のその他の管及び中空の形材(例えば、オープンシームのもの及び溶接、リベット接合その他これらに類する接合をしたもの)
7306	鉄鋼製の管用継手(例えば、カップリング、エルボー及びスリーブ)
7307	構造物及びその部分品(鉄鋼製のものに限る。例えば、橋、橋げた、水門、塔、格子柱、屋根、屋根組み、戸、窓、戸枠、窓枠、戸敷居、シャッター、手すり及び柱。第9406項のプレハブ建築物を除く。)並びに構造物用に加工した鉄鋼製の板、棒、形材、管その他これらに類する物品
7308	鉄鋼製の貯蔵タンクその他これらに類する容器(内容積が300リットルを超えるものに限るものとし、内張りしてあるかないか又は断熱してあるかないかを問わず、圧縮ガス用又は液化ガス用のもの及び機械装置又は加熱用若しくは冷却用の装置を有するものを除く。)
7309	鉄鋼製のタンク、たる、ドラム、缶、箱その他これらに類する容器(内容積が300リットル以下のものに限るものとし、内張りしてあるかないか又は断熱してあるかないかを問わず、圧縮ガス用又は液化ガス用のもの及び機械装置又は加熱用若しくは冷却用の装置を有するものを除く。)
7311	圧縮ガス用又は液化ガス用の鉄鋼製の容器
7312	鉄鋼製のより線、ロープ、ケーブル、組む、スリングその他これらに類する物品(電気絶縁をしたものを除く。)
7313	ワイヤクロス(ワイヤエンドスパンドを含む。)、ワイヤグリル、網及び柵(鉄鋼の線から製造したものに限る。)並びに鉄鋼製のエキステンデッドメタル
7314	鉄鋼製の鎖及びその部分品
7315	鉄鋼製のくき、ひょう、曲ひょう、渡くき、またくき(第8305項のものを除く。)その他これらに類する製品(鋼以外の材料から製造した頭部を有するものを含む。)
7317	鉄鋼製のねじ、ボルト、ナット、コーチスクリュー、スクリューフック、リベット、コッター、コッターピン、座金(はね座金を含む。)その他これらに類する製品
7318	鉄鋼製のねじ、ボルト、ナット、コーチスクリュー、スクリューフック、リベット、コッター、コッターピン、座金(はね座金を含む。)その他これらに類する製品
7320	鉄鋼製のばね及びばね板
7321	鉄鋼製のストーブ、レンジ、炉、調理用加熱器(セントラルヒーティング用の補助ボイラーを有するものを含む。)、肉焼き器、火鉢、ガスこんろ、血温め器その他これらに類する物品(家庭用のものに限るものとし、電気式のものを除く。)及びこれらの部分品(鉄鋼製のものに限る。)
7322	食卓用品、台所用品その他の家庭用品及びその部分品(鉄鋼製のものに限る。)、鉄鋼のワール並びに鉄鋼製の瓶洗い、ボリッシングパッド、ボリッシンググラブその他これらに類する製品
7323	衛生用品及びその部分品(鉄鋼製のものに限る。)
7325	その他の鍛造製品(鉄鋼製のものに限る。)
7326	その他の鉄鋼製品

(出所) (財)日本関税協会発行「実行関税率表(附表)」より作成

HS7301 - 7308 は構造物とその部分品である。HS7317以降は家庭用雑貨である。

4) 国別特徴

中国(表4(1)、(2))：輸入については次の特徴がある。HS72、HS73とも東アジアが最大の輸入先である。東アジアのシェアはHS72では1996年の54.5%から2003年には49.4%に低下したが、HS73では60.3%からわずかであるが61.6%に上昇した。品目別の東アジアのシェアは同表で見るとおりである。国別ではともに日本が最大の輸入シェアを占める。日本のシェアはHS72では1996年の34.2%から2003年には19.2%へと大幅に低下したが、HS73では25.3%から31.8%に高まった。第2位と第3位はHS72、HS73のいずれにおいても台湾、韓国である。上位3品目の最大の輸入先はHS72(7209、7210、7208)、HS73(7318、7304(鉄鋼製の管及び中空の形材、継目なし)7326)のいずれも日本である(ただしHS7209のみ第1位が台湾18.5%で、日本は第2位13.3%である)。輸出での特徴は次のとおり。HS72の最大の輸出先は東アジアであるが

1996年の73.9%から2003年には65.4%に低下した。国別輸出先順位は、第1位が韓国(22.0%)、第2位日本(15.9%)、第3位(10.6%)である(括弧内は2003年値)。HS73の最大の輸出先は米国で18.0%から29.1%へと一層高まり、東アジア向けシェアは31.9%から20.3%へと低下した。東アジアの国別向け輸出では、日本10.1%(第2位)、香港6.8%(第3位)である。輸出先として日本の役割は大きくない。ただしHS7202(フェロアロイ)の日本向けシェアは3分の1以上(34.3%)と最大である。HS73では7306を除きいずれも米国が最大の輸出先。第2位は日本であるが米国向けシェアの約3分の1である。

日本(表5(1)、(2))：輸出入とも東アジアが最大の取引先である。東アジア向け輸出シェアは、HS72では1996年の75.7%から2003年には82.3%に、HS73では43.3%から45.5%へといずれも高まった。輸入における東アジアのシェアはHS72で51.5%から60.0%へ、HS73では58.9%から68.7%へと、いずれも高まった。事実上の輸入先はHS72、

表 4 (1) 中国の HS72 と HS73 の上位 10 品目と第 1 位と東アジア
上位 3 位の輸出先

(単位：%)

HS	年次	輸出				
		第1位	東アジア諸国			東アジア計
72	1996	韓国	日本	香港	台湾	73.9
	2003	29.5	16.8	9.8	6.7	65.4
7201	1996	日本	韓国	台湾	タイ	90.8
	2003	22.0	15.9	10.6	8.1	98.8
7202	1996	日本	韓国	台湾	タイ	58.8
	2003	22.0	48.5	7.1	6.9	64.0
7207	1996	台湾	韓国	香港	ベトナム	97.3
	2003	40.8	37.5	9.4	7.7	100.0
7208	1996	韓国	香港	日本	タイ	70.2
	2003	42.7	4.8	15.9	3.5	66.9
7209	1996	イタリア	フィリピン	ベトナム	インドネシア	69.3
	2003	45.9	4.9	4.3	4.0	53.0
7210	1996	香港	インドネシア	マレーシア	フィリピン	59.3
	2003	0.0	13.5	10.6	8.5	44.6
7213	1996	韓国	香港	日本	タイ	88.1
	2003	51.0	0.6	5.8	0.9	73.4
7214	1996	香港	韓国	シンガポール	ミャンマー	76.1
	2003	20.8	8.4	7.5	5.1	94.0
7217	1996	香港	インドネシア	マレーシア	日本	27.6
	2003	18.2	1.0	5.7	2.7	33.6
7225	1996	香港	マレーシア	北朝鮮	タイ	52.2
	2003	19.9	5.4	4.7	3.6	53.0
73	1996	米国	日本	香港	韓国	31.9
	2003	18.0	13.7	14.1	4.1	20.3
7304	1996	米国	台湾	韓国	シンガポール	35.5
	2003	29.1	10.1	6.8	3.4	23.0
7306	1996	スーダン	香港	フィリピン	ミャンマー	40.0
	2003	16.4	10.1	9.6	5.4	20.6
7307	1996	米国	日本	韓国	台湾	34.3
	2003	24.3	7.9	6.8	4.2	28.7
7308	1996	米国	香港	日本	韓国	69.3
	2003	0.1	36.9	0.2	1.8	38.0
7317	1996	米国	日本	韓国	インドネシア	7.2
	2003	27.9	10.5	6.2	2.3	10.1
7318	1996	米国	日本	香港		18.9
	2003	20.1	15.7	5.8	6.4	14.4
7321	1996	米国	日本	香港		19.3
	2003	23.7	14.0	5.9	4.7	9.4
7323	1996	米国	日本	香港		19.0
	2003	5.9	32.9	26.9	1.7	13.3
7325	1996	米国	日本	韓国	香港	47.7
	2003	19.7	15.9	15.7	4.4	33.5
7326	1996	米国	日本	香港	韓国	44.6
	2003	39.3	4.3	1.2	1.7	26.0

表 4 (2) 中国の HS72 と HS73 の上位 10 品目と第 1 位と東アジア
上位 3 位の輸入先 (単位：%)

HS	年次	輸 入				
		第1位	東アジア諸国			東アジア計
72	1996	日本 34.2	台湾 8.0	韓国 12.3		54.5
	2003	19.2	16.2	14.0		49.4
7204	1996	米国 20.5	香港 1.7	日本 36.1	台湾 1.0	38.8
	2003	32.4	18.9	15.9	2.0	36.8
7207	1996	ロシア 60.3	日本 46.7	韓国 4.0		50.7
	2003	26.5	5.2	1.4		6.6
7208	1996	日本 21.4	韓国 18.5	台湾 2.2		42.1
	2003	15.5	12.9	7.0		35.4
7209	1996	台湾 13.5	日本 35.0	韓国 14.7	タイ 0.0	63.2
	2003	18.5	13.3	12.5	2.7	47.0
7210	1996	日本 58.0	台湾 7.7	韓国 12.7	マレーシア 0.1	78.5
	2003	29.0	22.1	17.1	2.1	70.3
7211	1996	台湾 12.9	日本 48.9	韓国 7.8	中国 1.3	72.1
	2003	47.1	19.7	17.0	1.6	85.4
7212	1996	台湾 16.3	韓国 12.8	日本 55.5	中国 1.2	87.1
	2003	40.5	34.3	13.6	1.3	91.3
7219	1996	韓国 19.6	台湾 9.1	日本 53.0		81.7
	2003	23.4	22.9	16.1		62.4
7220	1996	台湾 8.1	日本 67.1	韓国 10.2	マレーシア 0.0	86.6
	2003	38.0	25.1	10.5	2.4	77.4
7225	1996	日本 65.6	韓国 3.0	台湾 8.6	中国 0.1	77.3
	2003	44.3	11.9	8.7	1.8	66.7
73	1996	日本 25.3	台湾 16.9	韓国 7.3	中国 1.8	60.3
	2003	31.8	11.6	10.9	3.7	61.6
7301	1996	日本 0.1	台湾 12.5	韓国 40.0		52.6
	2003	40.0	24.0	16.0		80.0
7304	1996	日本 44.3	台湾 3.8	韓国 1.9		50.0
	2003	50.4	2.3	1.4		54.1
7305	1996	日本 45.1	韓国 3.7	シンガポール 3.0		51.8
	2003	81.4	10.1	2.4		93.9
7306	1996	台湾 39.1	韓国 9.3	日本 15.9	シンガポール 2.2	66.7
	2003	37.5	23.4	13.5	2.0	78.4
7307	1996	ドイツ 7.2	日本 20.2	韓国 9.5	台湾 7.8	40.2
	2003	23.3	22.5	8.1	6.9	40.1
7308	1996	中国 0.1	韓国 8.4	日本 8.8		17.3
	2003	13.7	13.3	7.6		34.6
7312	1996	韓国 5.7	日本 33.8	タイ 0.0	台湾 5.7	45.2
	2003	51.5	20.3	3.0	1.7	76.5
7318	1996	日本 32.8	台湾 22.3	韓国 11.4	中国 2.4	81.4
	2003	33.0	15.2	7.4	3.3	64.5
7320	1996	米国 5.2	日本 41.2	韓国 5.6	台湾 18.6	69.9
	2003	35.8	21.1	9.1	8.9	47.9
7326	1996	日本 25.3	台湾 29.7	韓国 9.0	中国 4.8	83.6
	2003	30.7	15.8	10.0	7.2	69.6

表 5 (1) 日本の HS72 と HS73 の上位 10 位と東アジア上位 3 位の輸出先

(単位：%)

HS	年次	輸出				
		第1位	東アジア諸国			東アジア計
72	1996	韓国	中国	タイ	台湾	75.7
	2003	24.2	23.6	9.6	9.5	82.3
7204	1996	中国	韓国	台湾	ベトナム	96.8
	2003	47	35	12.9	1.7	99.4
7207	1996	韓国	台湾	中国	ベトナム	78.2
	2003	52.1	34.9	5.9	5.5	98.8
7208	1996	韓国	タイ	中国	台湾	78.9
	2003	41.1	17.9	9.7	8.7	87.1
7209	1996	中国	タイ	マレーシア	韓国	81.1
	2003	34.3	12.6	7.8	7.8	84.3
7210	1996	中国	タイ	韓国	香港	64.5
	2003	24.3	9.6	9.5	6.1	67.1
7213	1996	韓国	中国	タイ	マレーシア	62.8
	2003	28.9	18.5	15.1	10.8	82.6
7214	1996	韓国	タイ	中国	インドネシア	78.8
	2003	60.2	9.6	5.8	3.9	86.7
7219	1996	中国	香港	韓国	台湾	81.3
	2003	29	18.2	16.6	9.2	83.8
7220	1996	香港	中国	韓国	タイ	76.6
	2003	17.2	14.8	13.9	8.6	75.1
7225	1996	中国	韓国	タイ	香港	67.4
	2003	42.3	13.0	6.1	5.4	80.8
73	1996	米国	中国	マレーシア	台湾	43.3
	2003	20.6	13.6	8.3	5.2	45.5
7304	1996	中国	韓国	台湾	マレーシア	42.0
	2003	19.7	9.9	4.3	4.0	47.8
7305	1996	マレーシア	中国	シンガポール		21.9
	2003	36.1	14.2	2.0		52.3
7306	1996	米国	マレーシア	中国	台湾	60.0
	2003	15.2	10.8	10.8	7.6	45.0
7307	1996	米国	中国	タイ	台湾	46.8
	2003	27.8	13.4	6.8	5.0	40.5
7308	1996	台湾	中国	シンガポール	ベトナム	59.1
	2003	31.1	9.1	7.2	5.6	71.0
7312	1996	中国	台湾	韓国	香港	34.3
	2003	22.3	6.7	6.1	4.1	46.9
7315	1996	米国	シンガポール	タイ	韓国	26.0
	2003	27.9	4.8	4.1	4.1	20.9
7318	1996	米国	中国	タイ	インドネシア	34.1
	2003	35.1	10.0	8.5	5.3	37.6
7320	1996	中国	香港	タイ	インドネシア	58.1
	2003	21.6	18.8	8.1	5.9	67.5
7326	1996	米国	中国	タイ	台湾	51.0
	2003	30.4	13.3	6.9	6.2	45.0

表 5 (2) 日本の HS72 と HS73 の上位 10 位と東アジア上位 3 位の輸入先

(単位：%)

HS	年次	輸 入				
		第1位	東アジア諸国			東アジア計
72	1996	韓国	中国	台湾		51.5
	2003	31.5	12.2	7.8		60.0
7201	1996	中国	北朝鮮	韓国		64.7
	2003	62.1	2.6	0.0		70.1
7202	1996	中国				22.1
	2003	63.0	4.1	3.0		32.8
7204	1996	韓国	台湾	シンガポール	タイ	42.2
	2003	22.1	15.4	3.9	9.1	82.8
7205	1996	中国	台湾	韓国		3.0
	2003	46.2	15.5	6.8	4.9	48.4
7208	1996	韓国	台湾	中国	インドネシア	68.8
	2003	2.4	0.0	0.6		94.7
7209	1996	韓国	台湾	タイ	中国	95.6
	2003	47.8	12.2	0.0	0.2	97.0
7210	1996	韓国	台湾	中国		92.3
	2003	48.7	40.8	3.4	1.8	84.7
7217	1996	韓国	中国	インドネシア	台湾	68.4
	2003	67.2	28.2	0.0	0.2	83.9
7219	1996	韓国	台湾	タイ	台湾	65.5
	2003	78.6	17.6	0.4	0.4	85.0
7223	1996	韓国	中国	タイ	台湾	77.9
	2003	89.3	2.8	0.2	15.1	80.5
73	1996	中国	韓国	台湾	タイ	58.9
	2003	21.3	18.2	11.1	6.5	68.7
7306	1996	韓国	タイ	インドネシア	中国	96.3
	2003	39.5	13.9	7.7	5.9	95.5
7307	1996	中国	韓国	タイ	台湾	59.4
	2003	70.6	19.9	1.2	1.7	69.4
7308	1996	中国	韓国	タイ	フィリピン	66.9
	2003	55.0	25.8	4.9	3.8	78.3
7312	1996	韓国	中国	タイ	台湾	78.5
	2003	20.8	9.9	13.0	14.7	87.9
7315	1996	中国	台湾	韓国	タイ	41.7
	2003	32.1	17.8	7.6	7.5	71.7
7318	1996	中国	台湾	韓国	マレーシア	54.3
	2003	28.5	24.9	3.8	2.2	64.2
7321	1996	中国	韓国	台湾		43.5
	2003	33.6	24.7	11.5	3.7	80.2
7323	1996	中国	韓国	タイ	台湾	49.7
	2003	54.6	9.0	7.9	6.9	72.7
7325	1996	中国	韓国	台湾	タイ	94.8
	2003	52.9	15.1	12.8	5.5	96.4
7326	1996	中国	韓国	台湾	タイ	57.9
	2003	23.1	11.5	2.5	0.2	72.2
	1996	中国	台湾	韓国	マレーシア	54.3
	2003	47.5	12.9	5.8	3.3	64.2
	1996	中国	韓国	台湾		43.5
	2003	13.0	26.2	6.1	4.4	80.2
	1996	中国	韓国	タイ	台湾	49.7
	2003	26.7	25.4	4.0	3.7	72.7
	1996	中国	韓国	台湾	タイ	94.8
	2003	12.5	8.6	22.4	2.8	96.4
	1996	中国	韓国	台湾	タイ	57.9
	2003	59.3	13.3	7.6	3.1	72.2
	1996	中国	韓国	台湾	タイ	94.8
	2003	18.0	9.2	13.6	8.1	96.4
	1996	中国	韓国	台湾	タイ	57.9
	2003	57.7	6.0	4.2	3.1	72.2
	1996	中国	韓国	台湾	タイ	94.8
	2003	64.6	19.1	7.7	2.5	96.4
	1996	中国	韓国	台湾	タイ	57.9
	2003	73.4	15.6	2.8	2.5	72.2
	1996	中国	韓国	台湾	タイ	57.9
	2003	30.1	8.7	13.0	3.0	72.2
	1996	中国	韓国	台湾	タイ	57.9
	2003	49.8	8.3	5.4	3.9	72.2

HS73 ともには韓国、中国であるとみてよい(ただし順位は HS72 では韓国が、HS73 では中国がそれぞれ第 1 位である)。両者合計シェアは両財とも 50%以上かそれに近い。HS72 の輸出では韓国と中国を中心とする東アジアである。HS4 桁分類で見ると、第 1 位は韓国か中国である(ただし HS7220 は香港が第 1 位)。HS73 の輸出は米国と中国を中心とする東アジアである。ただし米国向けシェアは 1996 年の 22.7%から 2003 年にはわずかであるが 20.6%に下がった。

韓国： HS72 の輸入先は事実上日本である。日本からの輸入シェアは 1996 年の 32.7%から 2003 年には 48.9%に上昇した(東アジアのシェアは 49.9%から 60.8%に高まった)。HS73 の輸入先は中国と日本である。1996 年には日本が第 1 位で 34.4%を占め、中国のシェアはわずか 9.6%しかなかったが、2003 年には中国が 24.6%を占め第 1 位となり、日本は第 2 位となった(24.4%)。輸出先は HS72 では事実上は中国を中心とする東アジアである。2003 年の東アジア向け輸出シェアは 72.2%と 1996 年の 74.5%に比べわずかであるが低

下したものの、依然圧倒的に大きい。国別では中国向け輸出シェアは 1996 年の 16.2%から 2003 年には 37.6%に上昇した。4 桁分類で見ると、10 品目中 7 つで中国が第 1 位である(HS7204、7217(鉄又は非合金鋼の形鋼)、7223(ステンレス鋼の線)では日本が第 1 位)。HS73 の輸出上位 2 カ国は中国と同じく米国をはじめ次いで日本である。米国向け輸出シェアは 1996 年の 23.2%から 2003 年には 25.0%に上昇し、日本向けは 19.9%から 17.5%に低下した。

台湾： HS72、HS73 とも事実上の輸入先は日本である。HS72 の東アジアのシェアは 1996 年の 38.6%から 2003 年には 38.0%とほとんど変化がなく、そのうち日本のシェアは約 28%である。HS73 では東アジアのシェアは 1996 年の 61.7%から 2003 年には 68.6%に上昇し、日本からの輸入シェアはそれぞれ 45.7%、46.8%である。輸出先は HS72 では事実上中国である(香港向けを含め 3 分の 2 以上)。HS73 は米国向けが約 4 割である。東アジア向け輸出シェアは 1996 年の 22.4%から 2003 年には 21.4%へと低下した。中国向け

輸出シェアは5.7%に上昇した。

上記東アジア4カ国の鉄鋼貿易の基本的構造は良質な中間財(HS72)を日本から輸入し、それを鉄鋼製品(HS73)として、一部は東アジア域内で相互に輸出されるが(4カ国間の2003年の平均域内輸出比率はわずか18.9%である。表2での4カ国の域内貿易比率は東アジアを対象としている)、他は域外に輸出される。4カ国のうち最大の輸出国は中国で、最大の輸出先は米国である。東アジアの域内鉄鋼貿易は中国を軸に展開されており比較優位構造がみられる。日本、韓国および台湾の中国向け第1位をはじめ上位品目(4桁ベース)は異なる。これを次にみよう。

5) 対中輸出を巡る3カ国の競合状況

中国市場：1) 日本、韓国および台湾の対中輸出第1位の品目が異なる(2003年では日本 HS7225、韓国 HS7220、台湾 HS7210)。2) 1996年の第1位の品目とも異なる。3) 上位3品目の累積シェアは日本 54.1%、韓国 63.9%、台湾 76.3%で、日本を除き高い。4) 3カ国とも HS7208/7209/7210の輸出規模が多い(日本はこれらに加えて HS7207(鉄又は非合

金鋼の半製品)も多い)。5) 台湾が最も対中輸出を増加させた。6) HS73でも HS72と同様の特徴がみられる。

3カ国の対中輸出第1位の品目は異なる(2003年で日本 HS7304、韓国 HS7311(圧縮ガス用又は液化ガス用の鉄鋼製の容器)、台湾 HS7326)。

1996年でも第1位の品目は異なりしかも2003年時点のそれとも違う。

前2項目は3カ国とも比較優位を生かしつつ、中国市場の変化に効果的に対応していることをみせたものである。台湾が最も輸出を増加させた。日本と韓国は対中輸出品目でかなり重なる。ただし両者の品目の順位や比重が違う。台湾は両国の品目と一部重なるが基本的にはむしろ HS73 後半の品目である家庭用品が多い。上位3品目の累積シェアはむしろ3カ国とも高まった(日本 32.4% 66.0%、韓国 59.8% 61.9%、台湾 60.2% 72.7%)。

比較優位構造とその変化は品目別貿易収支に反映される。以下鉄鋼貿易を4桁ベースで検証する。

まず日本、韓国および台湾3カ国の対中品目ベース貿易収支(表6(1))をみると次の特徴がみられる。

表 6 (1) 対中貿易バランス

(単位：100 万ドル)

	HS	1996	2000	2001	2002	2003	
日本	HS72	72	1087	1578	1776	2321	3123
		7204	103	208	372	337	485
		7207	1	25	90	87	40
		7208	18	29	142	213	283
		7209	356	404	330	358	528
		7210	340	337	309	469	627
		7213	53	29	41	68	37
		7214	12	10	9	12	21
		7219	45	196	183	293	373
		7220	26	32	26	38	51
	7225	336	509	364	534	857	
	HS73	73	96	258	242	71	282
		7304	134	182	245	282	286
		7305	3	6	44	238	135
		7306	21	11	23	19	22
		7307	37	60	55	58	71
		7308	58	77	24	122	129
		7312	12	15	20	19	28
		7315	8	9	17	15	18
		7318	6	8	2	9	37
7320		32	42	36	44	57	
7326	106	172	201	243	311		
韓国	HS72	72	343	445	845	1009	1902
		7204	1	3	10	61	66
		7208	23	22	2	4	297
		7209	156	261	225	257	417
		7210	117	187	227	285	460
		7212	11	20	20	27	44
		7216	8	10	9	8	67
		7217	8	15	12	17	23
		7219	113	416	438	478	793
		7223	3	5	7	7	6
	7225	8	28	29	57	117	
	HS73	73	24	25	45	17	45
		7305	8	1	1	11	6
		7306	11	13	13	21	57
		7307	13	14	22	22	27
		7308	42	8	3	12	34
		7312	8	25	34	46	69
		7317	1	3	5	7	8
		7318	9	2	2	5	9
		7321	2	1	1	1	1
7323		2	1	2	9	12	
7325	45	40	47	51	49		
台湾	HS72	72	343	408	51	608	1640
		7208	0	3	7	45	167
		7209	1	106	134	200	535
		7210	0	30	61	316	651
		7213	0	14	11	9	34
		7214	1	1	2	2	6
		7216	1	1	1	2	28
		7219	2	30	41	172	326
		7220	1	2	1	4	19
		7221	1	10	11	28	35
	7225	0	0	1	4	34	
	HS73	73	62	70	56	28	84
		7306	0	0	0	3	8
		7307	21	18	14	10	11
		7315	6	10	5	7	8
		7317	1	1	1	1	1
		7318	0	5	6	15	47
		7321	1	3	3	2	5
		7323	3	10	9	10	13
		7324	1	1	1	1	0
7325		12	12	9	9	10	
7326	1	3	3	16	65		

表 6 (2) 対日貿易バランス

(単位: 100 万ドル)

	HS		1996	2000	2001	2002	2003
中国	HS72	72	181	2267	2305	3079	3726
		7201	113	82	16	9	51
		7202	221	261	256	269	361
		7207	33	3	95	117	56
		7208	174	222	245	420	541
		7211	49	42	42	50	52
		7217	13	27	37	43	35
	HS73	73	13	190	78	228	115
		7307	30	39	40	27	36
		7308	64	96	135	136	154
		7315	12	6	12	10	18
		7317	1	6	6	4	11
		7318	26	56	55	96	169
		7323	15	76	100	115	134
7325	101	95	99	97	107		
韓国	HS72	72	907	1487	1610	2591	3062
		7204	160	172	210	204	314
		7209	82	253	123	42	114
		7210	43	27	23	91	211
		7212	13	14	8	10	11
		7217	27	35	30	33	45
		7219	241	108	53	154	126
	7223	10	19	18	17	24	
	7225	92	131	110	125	116	
	HS73	73	94	31	97	93	100
		7305	5	1	2	7	2
		7306	51	38	18	25	18
		7307	8	8	19	18	33
		7308	49	36	84	74	65
7312		1	17	18	21	29	
7317		11	9	6	6	7	
7318	1	2	2	2	4		
7321	5	2	1	4	2		
7323	8	16	20	14	13		
7325	52	41	34	40	44		
7326	33	18	47	43	37		
台湾	HS72	72	1054	964	757	1029	1213
		7208	20	42	7	39	92
		7209	34	21	4	1	-1
		7210	283	249	123	151	179
		7213	22	19	17	24	26
		7214	9	9	6	7	10
		7216	79	26	25	19	23
	7220	31	24	16	18	8	
	7221	51	36	20	31	36	
	7225	79	86	63	68	64	
	HS73	73	75	42	5	12	98
		7307	16	23	4	2	4
		7315	14	10	4	5	7
		7317	6	3	5	5	4
7318		3	17	30	25		
7321		9	3	2	1	1	
7323		15	28	26	20	18	
7324	3	2	2	2	3		
7325	46	66	46	55	52		
7326	80	64	58	48	44		

3 カ国とも HS72 の貿易収支は基本的には黒字である。最大の黒字計上国は日本である。HS73 の対中貿易収支は赤字で、日本の赤字は最大である(ただし 2003 年に台湾は黒字を計上し、2004 年には 1 億 8,466 万ドルとなった)。HS73 を品目別にみると、韓国と台湾はほとんど全ての品目で赤字であるが、日本の赤字は特定品目である(HS7308、HS7326)。

HS72 の対日貿易収支は中国、韓国および台湾の 3 カ国は大幅な赤字である(表 6(2))。HS73 については、韓国は黒字であるが、他の 2 カ国は赤字であるが小さい。対韓国貿易収支は HS72 では日本と中国は黒字であるが、台湾が赤字である。HS73 は基本的には 3 カ国とも赤字である。対台湾貿易収支は、中国は HS72、HS73 とも赤字であるが、日本と韓国はいずれも黒字である。

上記 5) 対中輸出を巡る 3 カ国の競合状況および 6) 品目別収支からみた比較優位と分業構造は先に指摘した中国の a dual hub の構造を示したものである。

戦後日本の鉄鋼関連輸入は国内の資源賦存状況や産業構造を反映して、

鉄鉱石の比重がかなり高いものであった。しかし 1973 年の第 1 次石油危機発生を契機に、粗原材料から製品原材料輸入への代替と大きな転換をする。これは工業化を推進している周辺諸国に大きな影響を及ぼした。現在の中国の鉄鋼貿易をみると、1970 年代に日本が経験したような構造変化の進展はないが、今後日本と同様の軌跡をたどる可能性が強い。

注

- (1) David Hale & Lyric Hughes Hale, China Takes Off, FOREIGN AFFAIRS, Nov./ Dec. 2003, p.36.
- (2) 本節での貿易統計は日本鉄鋼連盟『鉄鋼統計要覧 2004』、日本経済研究センター『中国研究 「5 年、10 年後の中国市場」』2005 年 3 月、第 9 章による。
- (3) 一般に鉄鋼産業(工場)は原料の収集と投入(鉄鉱石や石炭など) 製鉄(銑鉄の生産) 容銑予備処理(銑鉄を転炉に運ぶ) 転炉での製鋼(炭素の除去) 鑄造(鋼を帯状に固め一定の長さにて切断して鋼片にする工程) 圧延と熱処理という工程をたどる。
鉄鉱石をコークスや石灰石で蒸し焼きするところが高炉である。鉄鉱石中に

存在する酸化鉄を、コークス中の炭素を還元剤として鉄に還元して取出す工程を銑鉄といい、抽出されたものを銑鉄という。銑鉄は最終製品が鋼材（steel product）であるか鑄鉄鑄物（iron casting）であるかによってそれぞれ製鋼用銑（pig iron for steel manufacturing）、鑄物用銑（pig iron for casting）と呼ぶ。銑鉄は4 - 5%の炭素を含有しているので脆く、炭素を除去するため転炉に投入する。除去工程が製鋼で、炭素含有量が1.7%以上の鉄を銑鉄、それ未満の鉄を鋼という。銑鉄は鉄鉱石から酸素を除去しただけで加工度が低い中間財である。中国の銑鉄/粗鋼比率は1999 - 2000年には100%を超えその後低下したものの、2003年でも91.9%と依然高い。日本はほぼ75%である（もっとも銑鉄/粗鋼比率は必ずしも比例や一定の関係があるわけではない）。転炉を持つ製鋼工場で生産された溶鋼は一般に鋼塊（steel ingot）と呼ばれる（鉄鋼の生産能力を粗鋼でみるが一般には鋼塊ベースである。インゴットのうちキルド鋼が大半を占め、中国では98.1%である。製鋼法では転炉鋼と電炉鋼を合計して粗鋼ともいう。中国の場合前者が83.2%を占める。いずれも2002年値）。現在最も信頼性が

高く普及しているのが純酸素転炉であり、粗鋼生産に占める割合は中国72.7%、日本73.6%とほとんど同じである。一般に鋼は溶鋼を鑄型に鑄込んで鋼塊を作り、この鋼塊を分塊圧延機にかけて厚さ・幅・長さにしたがって「ビレット」や「スラブ」などと呼ばれる半製品である鋼片を作る。これに対して鋼塊を作らず直接「ビレット」や「スラブ」を作るのが連続鑄造法である。この方法は底なしの筒に溶鋼を注ぐと下から鋼は冷えて固まる。固まった鋼は順次引き下げるようにして、上部では連続して溶鋼を注入する。降下した鋼は必要な長さに切断して圧延する。この方法は建設費が安くかつ製品の均質性が向上する。日本の圧延用鋼塊に占める連鑄鋼片の割合は98.6%という高いものである。中国でも連鑄比率（=連鑄生産/粗鋼生産）は92.5%と高い。鉄鋼産業を有する国の連鑄比率は若干の国を除き90%以上である（インド65.3%、ブルガリア24.7%と例外的に低い。以上いずれも2003年値）。中国の鉄鋼産業は『中国の鉄鋼産業2005』（重化学工業通信社、2005年）が詳しい。また鉄鋼産業の技術的解説は『現代商品大辞典 新商品版』（東洋経済、1986年）を参照した。